

ISSN 1340—7368

公益社団法人 日本雪氷学会北海道支部機関誌

北海道の雪氷

Annual Report on Snow and Ice Studies in Hokkaido

第 37 号



2018 年 9 月

発行 公益社団法人 日本雪氷学会北海道支部

目 次

巻頭言	1
2018 年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文	7
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部2017年度事業報告	139
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部2018年度事業計画	143
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部2017年度会計報告	145
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部2018年度会計予算	146
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部2018年度役員名簿	147
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部 支部規程施行内規	148

表 紙

画： 斎藤新一郎

題字：福沢卓也

（表紙解説） 洞窟壁画のマンモス

一般社団法人北海道開発技術センター
斎藤新一郎

Font de Gaume 洞窟に描かれたマンモスである。フランス南部の Bordeaux 東方の、Dordogne 地方の、ドルドーニュ川支流の Vezere 川にある、世界遺産「ヴェゼール渓谷の洞窟壁画群」の1つであり、隣接の Lascaux の壁画が特に有名である。そして、近くの Cro Magnon において、人骨が発掘された。彼らは、最後のヴェルム氷河期の、後期旧石器時代の人類（新人）であり、洞窟に棲み、火を使い、石器を加工して石刃（ナイフ、槍）をつくり、動物狩りを行っていたらしい。石器でこつこつと、石壁に獲物を描いてきた（呪いを掛けてきた）のであろう。

人類は、猿人、原人、旧人、新人、現代人と進化してきたが、その外因は厳しい4回の氷河期であり、内因は脳の発達であり、石器づくりの進歩である。氷河期とは、氷冠下の土地を別にすれば、冷夏が長く連続して、数万年にわたった時期である。雪氷に関わっているので、厳しい自然環境に対応して、ヒトが進化してきたことを素晴らしいと思う。

